



「雪と少女」

牧師 立石尚志

●今年のニューヨークは南下した POLAR VORTEX (北極圏から降りて来る寒気の渦) の影響もあって、1月中は氷点下 10°C 以下の極寒の日々が続き、雪の日が多いため学校もたびたび休みになり、記憶に残る冬になりそうです。SOCHI でもいよいよオリンピックが始まりました。ところでソチという町は黒海の東岸にあるのですが、今回は同じ黒海の、対する西北岸、オデッサ (ウクライナ) に住んでいた少女の、雪がきっかけになって変えられた人生の話をご紹介しますと思います。

※この少女の話はグリニッチ便り 1998年3月76号(近藤先生執筆)からの引用であり、オリジナルのストーリーは Chuck Colson 著「The Body: Being Light in the Darkness」中に出て来ます。

オデッサの少女、10才のイリーナは雪を見て驚くべきことを考えた。当時、彼女はウクライナのオデッサという町に住んでいたが、オデッサは黒海の沿岸に位置しており、自然の厳しい旧ソ連の中でも特別に暖かい地方であった。

ある日、授業中に雪が降りはじめた。彼女は窓の外を見て気持ちが落ち着かなかった。つまらない授業を聞いているよりも、外に出て雪と戯れたい。ぐずぐずしていたらきっと雪はとけてなくなってしまうと心配したのである。その時、彼女は無神論教育の授業を受けていた(ペレストロイカ以前のソ連では信教の自由は認められておらず、徹底した無神論教育が施されていた)。彼女はこう思った。「どうして、大人たちはしつこく神はいないと繰り返し教えるんだろう。お化けとか幽霊とかについては、一度か二度存在を否定するだけなのに、なぜこんなにもしつこく否定するんだろう。本当は神さまが存在するんじゃないのか。きっと神さまは力強い方に違いない。無力なものを人が恐れるはずはないんだから。」始めから存在があやふやなものについて、人間は相手にしないはずだと、という考えから彼女は神の存在に思いが及ぶのであるが、こんな発想を持ったこと自体、彼女が非常にユニークで利発な少女であったことを示している。

●旧ソ連もさることながら、私たちの国、日本もキリスト教の排除については躍起になって来た歴史があります。フランスコ・ザビエルによってもたらされた神への信仰も、江戸時代に入ると鎖国と寺請制度でもって廃絶され、明治維新の

時代、キリスト教信仰が再びもたらされた時も、国粋主義と教育勅語、国家神道により締め付けが行われ、弾圧されました。日本の為政者たちはイリーナが考えた通り、自分たちの権力を脅かす実質的な力としてキリスト教の神を恐れたからこそ、組織的な根絶を図ったのです。話しはさらに続きます。

この日、イリーナは窓の外のを眺めながら、生まれて初めてのお祈りをした。「いいですか、神さま。もしあなたが存在しないなら、こんな授業を受ける必要はないんです。こんな退屈な授業を聞くために、雪と遊べないなんて、あなたのせいです。雪が降り止んだらどうするんですか。もし、あなたが本当に力のある方なら、雪を降らせ続けて下さい。」この時、雪は三日間降り続き、オデッサの町は60年ぶりの大雪となった。学校は休校となり、イリーナは友だちと一緒に雪と戯れた。この体験以降、彼女は密かに祈るようになり、神さまを求め始めるようになった。

●新約聖書/ヤコブ書4:8に「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。」とあります。少女は雪を楽しみたいという一心から、無神論教育を受けているただ中で神に近づいて行きました。イリーナの果敢な祈りを聞かれた神はどれほど喜ばれたことでしょうか。神の笑顔を考えずにはられません。雪は偶然だったと言われる方もいるかも知れません。しかし人の観点から偶然と思われる状況の中で、神は一人一人の人生に働きかけておられることを聖書は繰り返し語っているのです。そればかりか、「神は私の人生の一つ一つの出来事を通して、私に働きかけてくださった」という体験こそ、信仰者共通の告白なのです。誰でも人生で遭遇する様々な出来事や人生の意義を問うものです。しかし、その問いに対する答えを求めめるためには、人はどうしても「人の次元を超えた、人以上の存在」を求めざるを得ないのではないのでしょうか。イリーナはその存在に向かって歩みださしたのです。果たして彼女は求めていた神に出会ったのでしょうか。(話しは裏面に続きます)



「グリニッチで出会った神様」 Nさん (グリニッチ教会OB)

12年過ごしたNYから帰国して、2年半が経とうとしています。今の生活を思うとき、「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(Ⅱコリント5:17)このみことばが本当に自分に起こっていることを実感します。グリニッチでの教会生活を振り返る時、よく思い出すのはハリソン聖研(聖書研究会)のことです。聖書の知識が全くなかった私が、この時初めて「創世記」を読みました。アダムやエバや蛇やサタンが出てくる、あまりにも現実とかげ離れた内容に、きょんとしてしま

ったことを今でも覚えています。その後メンバーが入れ替わりながら、いつも3~4人の小さなグループで「聖書を読む会」のテキストを使った学びが続きました。立石先生のギター伴奏の賛美で始まり、コーヒーとお菓子のあたたかな集まりでしたが、学びが始まると真剣な一問一答が繰り返され、迫ってくるものがありました。神様になかなか応答しようとしなかった私には、つらく感じることもありましたが、あの場所で私は神様と出会い、ずっと語りかけてもらっていたのだと思います。呼びかけを聞きながら、従う表明ができなかった私を、神様はグリニッ

チを離れる最後の最後に踏み出させてくださいました。先日のデボーション(朝一人で聖書を黙想する時間)の中で、「神が主の民を次の段階に導かれる時に、暗闇を体験させられることがある」という言葉がありました。困難の中にあつたNYでの最後の年のことを思い、本当にその通りだと、神様のみこころを示されました。

今私は、導かれた教会で教会生活を送っています。NYに行くまでは、教会とも聖書とも縁のない生活をしてきた私が、毎週礼拝に通っているのは考えたらとても不思議なことです。小さか

った息子が大学生になって、親元を離れたせいもあるかもしれませんが、以前とはずいぶん生活が変わったように思います。同じ所に戻ってきたのに、まるで初めてここに住むような感覚さえありました。生活の中で、神様を第一にしよう！という強い思いが私の中に植えつけられたからなのでしょうか。

今通っている教会を初めて訪れたのは、2年前の秋に立石先生が宣教報告のためにいらっしゃった時でした。その2ヶ月ほど前に日本に帰国をしていた私は、いくつか教会を紹介してもらっていたものの、日本の教会ってどんなだろう…という気持ちもあり、引越しの後の忙しさを理由に、どこの教会にも

行かないまま過ごしていました。その日は祈り会の日で、そこで私は遠く離れたグリニッチのために祈り、支援してくださっている方々に出会いました。自分の知らない所で祈ってもらっていたことを知り、驚き、感動しました。初めて礼拝に出席して、賛美をし、メッセージを聞いた時は、喜びが湧き上がり、お祈りに胸が熱くなりました。

あの日の祈り会の集まりに、時々私も連なっています。心を合わせたお祈りを、神様は聞いてくださり、喜んでくださると思えるからです。以前、祈るという世界を知らなかった私は、聖美さんに「知っている人ならまだしも、顔も見つけない人のために祈るな

んでちょっと考えられない」と、率直な疑問をぶつけたことがありました。それを聞いて聖美さんはなんだか困ったような顔で笑っておられました…そんな私が今は自分から祈りの輪の中に入ろうとしています。まだまだ未熟な祈りしかできませんが、周りの人の真実な祈りを聞きながら、祈りを教えられています。

グリニッチでは経験することのなかった、教会員としての生活が始まりました。神様の子とされたことに感謝して、何が神様に喜ばれることなのか問いながら、一步一步、歩んでいきたいと思っています。(Nさんは帰国される最後の日曜日に洗礼を受けられました。) ■

(表からの続き)

この後、イリーナの人生を変えるもう一つの出来事が授業中に起きた。ある日、教師がしばらく教室を離れた際に、級友の一人が栗の実を口から吐き出し、その実がインク壺に当たり、壺は割れ、壁にインクが飛び散ってしまったのだ。戻った教師は誰がやったのかと一人一人に詰問をはじめたが、イリーナは「床の上に置いてあるカバンから何かを取ろうとしていたので、何も見ていなかったんです。」と嘘をついた。嘘をついたことで、彼女は良心の呵責に苛まれた。「嘘をつくということは、人の前で自分を引き下げることだ。私は周囲の状況に振り回されない人間になりたい。そのためには沢山の本を読んで人間の歩むべき道を学ぼう。そして神さまのことをもっとよく知り、もっと神さまに祈ろう。そうしたら、私は自分という人間をきちんと確立できるだろうし、誰も私のことを操作したりできなくなるだろう。」

彼女はこの時からドストエフスキー、プーシキン、ツルゲーネフ、トルストイと言ったロシアの文豪の本を読みあさるようになる。これらの本から得られる知識と思索を通して、彼女は神のことを断片的に知って行く。しかし、聖書を持っていないか

った彼女は神を探求することにおいて、行き詰まってしまった。しかしついに23才の時に、米国に移住するユダヤ人の友人を通して、彼女は初めて聖書を手にした。その聖書を読破して行く中で、今まで数々の書物から断片的に得ていた知識がジグソーパズルのように一つにまとまり、完成した絵になった。彼女は確かに自分がクリスチャンであり、自分が神に愛されている存在であることを確認し、心は喜びに満たされたのである。

●イリーナも、Nさんも神に近づいた結果、得たものは自由と喜びでした。鎖国は何もソ連や日本のように国家レベルのことだけではありません。神に主権を譲り渡したくない人間一人の心の状態なのです。明治維新、ペレストロイカには古い制度や考え方の破棄という大きな苦痛が伴いましたが、その結果、不完全ながらもより自由な社会がもたらされました。神に従う者に約束されているものは「真の自由」です。「見よ、わたしは戸の外に立ってたたき、だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは彼のところに入る」(黙示録3:20)と神は今日もあなたの心の扉を叩いておられます。神の与える自由の中へ、勇気をもって一歩、踏み出されませんか？ 雪のNYより ■

■ 2014年 冬の集會・行事予定 ■

※ 下記以外にも週の間に、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

【定例集會】

- ★ **日曜礼拝** / 10:00~11:30
メッセージは託児室でモニターを通して聞く事ができます。ベビーシッターも致します。
- 礼拝後 **グループ会** / 12:15 まで
大人、子供それぞれのクラスに分かれ、分かち合いの時を持ちます
- ★ **ウェルカム礼拝** / 毎月最終日曜
- ★ **祈禱会** / 水曜日 10:00~12:00

【各種集會】

- ★ **ハリゾン** 聖書を読む会
隔週火曜 10:00am 場所:ハリゾン長老教会
- ★ **スタンフォード** 聖書を読む会
隔週水曜午後 1:15 場所:井上宅
- ★ **ハートフォード** 聖書を読む会
隔週月曜午前 10:00
毎週木曜午前 場所はお問合せください

- ★ **グリニッチ** 聖書を読む会
次回ウェブでご案内します
- ★ **グリニッチ** グリニッチ家庭集會
次回ウェブでご案内します
- ★ **マウントキスコ** 聖書を読む会
毎週水曜 8:00pm 場所:平野宅
- ★ **ビジネススピーブル・パイブル・フェローシップ**
金曜日 8:00pm 場所:教会図書室

● **ウェルカム礼拝** 2/23(日) 10:00~11:30 お話:立石聖美さん

ウェルカム礼拝は初めて礼拝に来られる方、キリスト教に関心ある方にとって入りやすい内容で構成しています。23日は牧師夫人の立石聖美さんがお話ししてくれます。

● **3月「心の成長キャンペーン」** 3週間にわたり、ともに一冊の本をともに読み、毎週の礼拝もその本のテーマに沿って行っていきます。心のシェープアップを求めている方、どなたでも参加できます!

● **イースター・セレブレーション!** 4月20日(日) 午後1時~3時

大礼拝堂でのイースター礼拝後、楽しいエッグカラリング、大エッグハント、楽しいおやつがあります!

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志
c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com
《問い合わせ》 教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: church@jgclmi.com

